

5年	道徳	「相手の思いに応じて」 1時間	概要	個別の問い	適 △
手立て		<ul style="list-style-type: none"> ・「個別な問い」をもたせる。教材に出合った児童は、これまでの経験や価値観と結び付け、疑問をもったり登場人物に自分を重ねたりして考える。そこから生み出される問いは、本来は多種多様となる。それぞれが問題と捉え、考えたいという思いのある問いを追究できるようにすることで、児童が自己の生き方についての考えられるようにした。 ・「価値についての事前アンケート」を行う。これまでの自分の経験や課題を振り返ることで、児童は自己理解を深め、問題意識をもって授業に取り組めるようにする。また、教師も児童の道徳性を把握し、授業づくりに生かす。 ・ICTを活用する。問題意識をもつことができた児童は、自分事として道徳的諸価値に向き合えるようになる。この主体的な思考は、「友達の考えも知りたい」という思いに繋がり、必要感のある「協働的な学び」へとつながる。多面的・多角的思考を広げるために、ICTの活用も有効だと考える。ICTの活用により、小集団での話し合いを共有しやすくするだけでなく、共有したことを基に話し合いができるようにする。 	児童の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・「個別の問い」を選択したことで、意見を交流する様子が見られたが、振り返りを見ると、教師が設定した2～3の問いを考えた授業との違いは見られなかった。 ・その時間に考えさせたい「道徳的な価値」を児童に明確に伝えたことで、発言や振り返りが主題に沿った内容になっていた。 ・主題に対してみんながどんな考えなのかを確認し、安心する様子や、違いに驚く様子が見られた。 ・Figjamを活用したことで、友達の意見を参考にしたり、それをもとに話し合いをしたりする場面が見られた。自分の考えを表現することが苦手な児童は、友達のメモを参考にしながら書く様子が見られた。 	
成果		<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケート（テキストマイニング）は、児童間だけでなく教師が児童の道徳性を把握し、授業づくりに生かすことができる。 ・ICT（Figjam）は、決まった答えを確認するのではなく、多様な考えに触れ、学び合う際に有効である。 	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校段階では「個別の問い」をもつことが難しい児童も多いため、教員が教材の中の道徳的価値について考えられる場面を選択し、自分の考えやみんなの考えを比べながら、自分のなりの最適解を見つけられるようにしたほうがよい。 	